

- ハ、雄辯學研究 演說會、討論會等への参加
- ト、協同組合研究 消費組合、購買組合その他相互扶助的機關の研究
- チ、農民組合研究 農民運動自体及びそれとの連絡研究
- リ、政黨研究 政黨運動及びそれとの連絡研究

人をほり下

一般情勢報告

昨年十月 東京に開かれたる全國大會以後今日までに於ける労働組合總聯合の運動報告は、以下各部の報告に於て之を述ぶるが、その重要な一般報告をなせば次の如くである。

一、一九二〇年三月、戦後、世界及動に端を發した經濟不況は年と矢に深刻化し、加ふるに一九二九年十月、弗の回アメリカの株界修落し、茲に世界的不景氣の幕は切つておとされ、深刻な不景氣は、労働階級を犠牲とし、復活すべく資本は労働階級の上に反動的攻撃を示して来た

ニ、その結果、労働者の窮乏は甚だしいものとなつて来た、即ち産業合理化と生産制限の發行によつて、おびたぐしい失業者の増加となつた、日本には正確な失業統計を持たないが内務省の発表によれば本年一月現在の失業者は三十七万二千二人であると報じてゐるが、この報告は出籍目であつて、日本經濟年報はこれに旨を加へたものが餘程實際に近いものと述べてゐる。また本年四月、エゴノミスト誌は二百万と論じ、プロレタリア科學誌は、更にその数字に補正を加へ二百五十万と報じてゐる。

三、更に労働賃金と其の實際収入は低下した、即ち日本銀行の指数大正十五年一〇〇に対して昭和六年一月は賃金に於て九三、二であり実収に於て九三、六である。

四、実収入減に就業労働者が減じて居るのであるから、労働階級全体の収入は激減してゐることは言ふまでもない、即ち日銀発表の実收賃銀指数に労働人賃指数で乘せたるものを賃金支拂高として見ると次のやうになる。

労働階級の全収入

十五年	二年	三年	四年	五年	六年三月
一〇〇	九六・八	九五・二	九四・七	八九・九	六九・五

但しこの計算は、無償休日の増減を考慮に入れてゐないのであるから、近頃資本家が労働者収入減少の爲にするアイドルシステムを考慮に入れば、労働階級